
邪無荘の愉快的な住人達。

摩璃藻

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

邪無荘の愉快的な住人達。

【Nコード】

N5077D

【作者名】

摩璃藻

【あらすじ】

邪無荘の住人の話。早い話化け物ばかり。とてつもなく暇な人だけ読んでください。この話意味がわかりません、というかストーリーなくね？

(前書き)

これ見て面白いって思ってくれた人！是非お友達になってください！

ここは『邪無莊』。まんまアパート。
ここにはどこか頭のネジが外れたり余計にくっついてたりする住
人がいっぱいというかそんなのしかいない。
まあとりあえずそういう話なので、ここの生活を覗いてみようじ
ゃないか。そこの暇人さん

* * *

主人公、カスガ（14男無職）の朝は……え？ 名字？ 名前？
呼び名がカスガなんだよ。そうしておいて。
朝は、ペットに餌をやる事から始まる。

「おはよう、蕎麦」

「ギョボルルルルツルゲエエエエ！」

蕎麦 ペットの名前

「そんなに慌てて食べると喉につまるよ」

果たしてこのペットに喉とかあるんだろうか。いや……それより
口、何個あるんだよ。

ああ、適当な化け物を想像してくれ。

「ギャルゲエエエエ！」

「はいはい」

ちなみに餌は牛二頭。

「ギューブエツエエエルルウイイイイ」

「え？ たまには安物の牛がいいって？ もー、ブルジョワだな

あ

松坂牛。

何で言葉通じてるの？

「いつつもハイテンションだねえ蕎麦」

この人はお母さん（14〜180女仕事はしてる）。誰のかって、別に。ただひたすらお母さんだから。

外見？ 君のお母さん。

「おはようございまーす」

カスガはお母さんに挨拶をした。

「おくびかじりむし〜」

かぶっ

ぼきっ

にょきっ

「どーしてカスガの体はこんなに硬いの？ おしえて〜お母〜さん」

「きつと化け物だからよ」

この少女はスパイ（1882女無職）。え？ いや、呼び名がスパイ。

ちなみに吸血鬼だそーです。

「お母さん、化け物はないよ〜」

カスガ……生身で大気圏突破しても平気な癖に。ついでに宇宙いけるくせに。不死身な癖に。

「スパイはりよ〜ぶ〜のおくびをかじりにいきまあすですよ〜」

「いつてらっしやい」

「僕もついてくよ」

「りよ〜ぶ〜」

スパイは七号室をノックした。

「……」

ちやらちやらした格好の高校生っぽいのが出てきた。

こいつはりよ〜ぶ〜（17男高校生）通常ピアスへそピアス舌ピアス舌タトゥーネックレス×5髪ツンツン超金。

でも顔は大人しい。

「おくびかじりむし〜」

かぶっ

じるじるじるるる……じゅるっ

「いたい」

「ごち〜！」

ホントに吸いますよスパイは。

「おはよう カスガ」

「おはようりよ〜ぶ〜」

「蕎麦 元気か」

「うん 凄く」

「何か 言ってたか」

「たまには安いのも食べたいって。ブルジョワだね」

「手配 しておく」

「ごめんね」

りよ〜ぶ〜はお金持ち。ムカツク。

「ヘアバン！ ヘアバン！」
「やめて」

スパイがキャツキャツと笑いながらりよ〜ぷ〜のヘアバンドを取ろうとする。りよ〜ぷ〜は飛んでいるスパイを振り払おうとするが、全然だ。

「スパイ、りよ〜ぷ〜が困ってるよ」

「でもヘアバン！」

「スペアなら 前もやった」

「今つけてるやつが欲しいの！ 欲しい欲しい！」

スパイは叫んだ。

「魔王様〜！ しょ〜うか〜ん！」

上空に巨大な魔法陣があらわれ、そこから黒髪黒目の青年が落ちてきた。

「あり？ 勇者呼んじった」

マジかよ。

「世界は広いな、ギャーツハツハツハ！」

そしていなくなった。

「カスガカスガカスガ」

「何？」

「カスガの血が飲みたいよう！」

無茶言うね。

「僕自分の血とか見た事ないからなあ……………」

あ、りょくぷくは学校に行った。

「カスガの血はきつと藤色だよ！」

「怖いね」

「わたしは金色だよ！」

「凄く怖いね」

二人（？）で笑った。こいつらの方がこえーよ。

「キョキョオリリリリフツツベエエエエエ！！」

「蕎麦はメミーテンパツテ色だつてさ」

どんな色だ。

「美味しい？ 美味しい？」

「美味しいんじゃない？」

断言させてもらうが、絶対に美味しくないぞ。

「お母さんとりょくぷくは赤　カスガはふめーで予想は藤色
わたしはわたしは金色でえく、蕎麦はメミーテンパツテ色！」

頑張つてドラえ○んの歌（初期）にのせて歌ってみて。出来た人は是非教えて欲しい。

「ナレーターは？」

「赤」

今の？ 俺。正体？ ナレーターという生き物だ。

(後書き)

自分で見て「なんじゃこりゃ」「って言ってしまいました。終わってます。

でもカスガ君はお気に入りに入り。

ナレーターをキャラクターにするのが最近のマイブームでこれはその結晶体(?)です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5077d/>

邪無荘の愉快的な住人達。

2011年2月13日22時43分発行